

専門学校 広島自動車大学校

自動車整備科 1 級自動車整備士コース

1 年生

【 シラバス 】

令和 8 年度版

《 注意事項 》

- ・ 全ての講義において、このシラバスを持参しておくこと。
- ・ 該当する講義のシラバスを確認し、予習・復習を行うこと。

学籍番号

氏 名

専門学校広島自動車大学校
1 級自動車整備士コース

1・2 年生

教科 科	教育科目	項目名	シラバス ID	1 年生			2 年生		
				コマ	時間	単位	コマ	時間	単位
学 科	自動車工学①	自動車の構造・性能	1、2	9	73.8	4	6	48.6	3
		自動車の力学・数学	3	26			15		
		電気・電子理論	4	6			6		
	自動車工学②	材料	5	—	—	—	6	32.4	2
		燃料・潤滑剤	6	—	—		6		
		図面	7	—	—		6		
	自動車整備 エンジン又はモータ		8	36	64.8	4	24	43.2	2
	自動車整備 シヤシ		9	62	111.6	7	52	93.6	6
	自動車整備 電装		10	26	46.8	3	20	36.0	2
	自動車整備 故障原因探求		11	—	—	—	12	39.6	2
	自動車整備 電子制御装置		12	—	—	—	10		
	自動車整備に関する法規		13	13	23.4	1	—	—	—
	自動車検査		14	—	—	—	13	23.4	1
	学科計				178	320.4	19	176	316.8
実 習	自動車整備作業 エンジン又はモータ		15	100	180.0	6	72	129.6	4
	自動車整備作業 シヤシ		16	164	295.2	9	140	252.0	8
	自動車整備作業 電装		17	88	158.4	5	68	122.4	4
	自動車整備作業 故障原因探求		18	—	—	—	24	79.2	2
	自動車整備作業 電子制御装置		19	—	—	—	20		
	自動車検査作業		20	16	→	→	16	57.6	1
	実習計				368	662.4	20	340	612.0
合 計				546	982.8	39	516	928.8	37
教 養	一般教養		21	20	36.0	2	—	—	計 40 コマ 72.0 時間 2
	工作作業		22	8	14.4	→	—	—	
	特別教育活動		23	16	28.8	→	16	28.8	
	教養計				44	79.2	2	44	28.8
単位 2 年間計			80	1 年計		41	2 年計		39

※学科 1 単位 15 時間、実習 1 単位 30 時間とする

※1 コマ 90 分授業を 1.8 時間とする（50 分を 1 時間）

1 年生詳細

教科 科	教育科目	項目名	ID	教育内容	コマ		単位 コマ数	
					1年生	2年生		
学 科	自動車工学①	自動車の構造・性能	1	自動車の概要・構造	9	—	4 単位 41 コマ	
			2	自動車の構造・性能	—	6		
		自動車の力学・数学	3	自動車力学と数学	26	15		
		電気・電子理論	4	電気と磁気・半導体の基礎	6	6		
	自動車工学②	材料	5	自動車の材料	—	6	—	
		燃料・潤滑剤	6	自動車用燃料及び潤滑剤	—	6		
		図面	7	図面の基礎	—	6		
	自動車整備	エンジン又はモータ	8	エンジン又はモータの構造 点検・整備要領	36	24	4 単位 36 コマ	
		シャシ	9	シャシの構造 点検・整備要領	62	52	7 単位 62 コマ	
		電装	10	電装品の構造 点検・整備要領	26	20	3 単位 26 コマ	
		故障原因探求	11	故障現象と探求の進め方	—	12	—	
		電子制御装置	12	電子制御装置の点検・整備	—	10		
	自動車整備に関する法規		13	法令及び保安基準	13	—	1 単位 13 コマ	
	自動車検査		14	点検基準及び保安基準	—	13	—	
学科計					178	176	19 単位 178 コマ	
実 習	自動車 整備 作業	点検、 分解、 組立、 調整、 検査	エンジン又はモータ	15	エンジン又はモータの点検・整備 作業	100	72	6 単位 100 コマ
			シャシ	16	シャシの点検・整備作業	164	140	9 単位 164 コマ
			電装	17	電装品の点検・整備作業	88	68	5 単位 88 コマ
			故障原因探求	18	故障現象と探求の手法	—	24	—
			電子制御装置	19	電子制御装置の点検・整備	—	20	
	自動車検査作業		20	自動車の点検・検査	(16)	16	2 年間	
	実習計					352 (368)	340	20 単位 352 コマ
合 計					530 (546)	516	39 単位 530 コマ	
教 養	一般教養		21	就職指導・資格講習	20	—	2 単位 20 コマ	
	工作作業		22	ガス溶接・アーク溶接	(8)		2 年間	
	特別教育活動		23	集合・発声訓練、登山 他	(16)	16		
	教養計					20 (44)	16	2 単位 20 コマ

※学科 1 単位 15 時間、実習 1 単位 30 時間とする

※1 コマ 90 分授業を 1.8 時間とする（50 分を 1 時間）

ID	教育科目名	項目名		担当教員
1	学科 自動車工学①	自動車の構造・性能		金本・沖田
選択・必修	必修	年次・学期	1 年・前期	
授業形態	講義	授業時間	4 単位授業の詳細 1・9 コマ(16.2 時間)	
目的・目標	自動車の基礎的な原理・法則を通じて、専門教科を学習するために必要な、自動車の基礎知識を習得する。			
授業計画	自動車の構造・性能			合計 9 コマ
	I．自動車の概要 1. 自動車の歴史 2. 自動車の分類 1) 道路運送車両法による分類 2) 用途による分類 3) 駆動輪の位置による分類 4) 原動機による分類 5) エンジンの位置による分類			4 コマ
	II．自動車の構成 1. 自動車の基本構成 2. 自動車の安全装置			2 コマ
	III．自動車の機械要素 1. ねじ 2. スプリング 3. ベアリング 4. ギヤ 5. ベルト及びプーリ 6. チェーン及びスプロケット			3 コマ
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習・復習・小テストを実施し理解を深める。 ③授業中に質問し、理解度を確認する。			
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行 「三級自動車整備士（総合）」			
評価方法	期末試験 50%、単元試験 30%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(59 点以下)			
教員実務 経験・備考	担当教員 金本 貴司 (自動車整備士として自動車整備工場で整備業務に従事) 沖田 耕一 (自動車整備士として自動車整備工場で整備業務に従事) ※ 1 単位 1 5 時間 1 コマ 9 0 分授業を 1. 8 時間とする (5 0 分を 1 時間)			

ID	教育科目名	項目名		担当教員
3	学科 自動車工学①	自動車力学と数学		金本・沖田
選択・必修	必修	年次・学期	1 年・前期・後期	
授業形態	講義	授業時間	4 単位授業の詳細 2・26 コマ(46.8 時間)	
目的・目標	自動車整備士に必要な基礎的な自動車力学を学習する。 自動車工学に必要な数学力（計算知識）を習得する。			
授業計画	自動車力学と数学			合計 26 コマ
	1. 単位 1) メートル単位系と SI(国際)単位系について学習する。 2. 円の面積・体積、排気量と総排気量 1) エンジンのシリンダ内径と行程(ストローク)から 排気量(円柱の体積)の求め方について学習する。 3. トルク(回転力)と駆動トルク 1) 締め付ける力→トルクについて学習する。 2) 回転力→エンジン軸トルク、駆動トルクについて学習する。 4. モーメントを使った計算 1) “てこ”について学習する。 (比率(比例式)、力のつり合い、距離と力の関係) 5. 速度及び平均速度と加速度 1) 秒速と時速について学習する。 2) 平均速度と走行距離について学習する。 3) 加速度、マイナス加速度について学習する。 6. 平均ピストン・スピード 1) エンジン回転速度とピストン・ストロークから 平均ピストン・スピードの求め方について学習する。			前期 16 コマ

授業計画	7. 仕事と仕事率（効率・動力・出力） 1) 仕事量(J)と仕事率(W)について学習する。 8. 圧力 1) 自動車のブレーキ機構を基に圧力(パスカル)について学習する。 9. モーメント 1) 作用と反作用 2) 力のつり合い、距離と力の関係 10. モーメントを用いた荷重計算 1) トラックの荷重計算 2) 乗用車の重心 11. ギヤ比 1) 回転速度について学習する。 2) トルクの伝達について学習する。 12. 車速と駆動力 1) 車速について学習する。 2) 駆動力について学習する。 13. 燃料消費率 1) $g/kw \cdot h$ と km/l の違い。 2) km/l の求め方について学習する。 14. 比率（百分率） 1) 比率について学習する。 2) LLC 濃度の求め方について学習する。	後期 10 コマ
学習方法	①専用テキストを中心に授業を進める。 ②小テストを実施し、理解度を確認しながら進めていく。 ③復習状況を確認し、理解度を深める。	
教科書 参考資料	専門学校 広島自動車大学校専用 「力学・数学 専用テキスト・ファイル」	
評価方法	期末試験 50%、単元試験 30%、授業態度(小テスト、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(59 点以下)	
教員実務 経験・備考	担当教員 金本 貴司 （自動車整備士として自動車整備工場で整備業務に従事） 沖田 耕一 （自動車整備士として自動車整備工場で整備業務に従事） ※ 1 単位 15 時間 1 コマ 90 分授業を 1.8 時間とする（50 分を 1 時間）	

ID	教育科目名	項目名		担当教員
4	学科 自動車工学①	電気・電子理論		沖田 耕一
選択・必修	必修	年次・学期	1 年・前期	
授業形態	講義	授業時間	4 単位授業の詳細 3・6 コマ(10.8 時間)	
目的・目標	電気の基礎や磁気との関係、半導体の基礎知識を修得する。 自動車の電装に係る、基礎的な電気回路、トランジスタ回路を理解する。			
授業計画	電気と磁気・半導体の基礎			合計 6 コマ
	1. 電気の基礎 1) 電流・電圧・抵抗の関係 2) オームの法則 3) 直列接続と並列接続 4) 基礎的な電気回路と電気用図記号 5) 直流と交流 6) 導体、不導体及び半導体			2 コマ
	2. 半導体の基礎 1) P型半導体及びN型半導体 2) 各種ダイオード 3) 各種トランジスタ 4) サーマスタ 5) トランジスタ回路			2 コマ
	3. 磁気の基礎 1) 磁界及び磁力線 2) 磁束と磁束密度 3) コイル 4) 電磁力及び電磁誘導			2 コマ
学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習・復習・確認試験を実施し理解を深める。 ③授業中に質問し、理解度を確認する。			
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行 「三級自動車整備士 (総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行 「電装品構造」			
評価方法	期末試験 50%、単元試験 30%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(59 点以下)			
教員実務 経験・備考	担当教員 沖田 耕一 (自動車整備士として自動車整備工場で整備業務に従事) ※1 単位 1 5 時間 1 コマ 9 0 分授業を 1. 8 時間とする (5 0 分を 1 時間)			

ID	教育科目名	項目名		担当教員
8	学科 自動車整備	エンジン又はモータ		富田・沖田
選択・必修	必修	年次・学期	1 年・前期・後期	
授業形態	講義	授業時間	4 単位授業・36 コマ(64.8 時間)	
目的・目標	自動車の原動機に関する、各部名称、構造、性能、作動原理等を学習し、原動機を整備するために必要な、基礎知識を習得する。 自動車の原動機に関係する、点検・整備の必要性やその概要・手法を習得する。			
	エンジン又はモータの構造・機能、点検・整備要領			合計 36 コマ
	□基礎整備作業 I. 整備作業の基礎知識 1. 整備作業の目標、職場の労働安全 2. 安全作業の心得、工場から発生する公害 II. 整備作業機器 1. 一般工具 1) 工具の分類、工具の取扱いについて 2) 手持ち工具の種類と名称、取扱いについて 3) トルク・レンチ等の取扱いについて 2. 整備作業用機器 1) 構造・機能取扱い方法、安全上の注意事項について 2) バイス、やすり、弓のこ、ドリル、電気ドリル、卓上ボール盤、ベンチ・グラインダ、タップ、ダイス等の取り扱い			前期 4 コマ
授業計画	□エンジン又はモータ I. エンジン本体 1. エンジンの原理 1) 作動 (1) 4サイクル・エンジン（ガソリン） (2) 4サイクル・エンジン（ディーゼル） (3) 2サイクル・エンジン 2. 構造・機能 1) シリンダ・ヘッド及びヘッド・ガスケット 2) シリンダ及びシリンダ・ブロック 3) ピストン、ピストン・ピン及びピストン・リング 4) コンロッド及びコンロッド・ベアリング 5) クランクシャフト及びジャーナル・ベアリング 6) フライホイール及びリング・ギヤ 7) バルブ機構 3. エンジン本体の整備要領 1) シリンダ・ヘッドの分解・点検・組み立て 2) シリンダ及びシリンダ・ブロックの点検 3) ピストン、ピストン・ピン及びピストン・リングの点検 4) コンロッド及びコンロッド・ベアリングの点検 5) クランクシャフト及びジャーナル・ベアリングの点検 6) フライホイール及びリング・ギヤの点検 7) バルブ機構の分解・点検・組み立て			前期 4 コマ
次ページに続く				

授業計画	II. 潤滑装置 1. 概要 1) オイルの循環 2) ピストンの冷却 2. 構造・機能 1) オイル・ポンプ 2) オイル・フィルタ 3) オイル・パン 3. 潤滑装置の整備要領 1) オイル・ポンプの分解・点検・組み立て 2) オイル・フィルタの点検・取り付け 3) オイル・パンの点検・組み立て	前期 2コマ
	III. 冷却装置 1. 概要 1) 空冷式・水冷式 2. 構造・機能 1) ウォータ・ポンプ 2) ラジエータ及びサーモスタット 3) ファン 4) 不凍液 3. 冷却装置の整備要領 1) ウォータ・ポンプの取り外し・点検・取り付け 2) ラジエータ及びサーモスタットの点検 3) 冷却水の凍結温度の点検	前期 2コマ
	IV. 吸排気装置 1. 概要 1) ガソリン・エンジン 2) ジーゼル・エンジン 2. 構造・機能 1) エア・クリーナ 2) インテーク・マニホールド及びエキゾースト・マニホールド 3) エキゾースト・パイプ及びマフラ 3. 吸排気装置の整備要領 1) エア・クリーナの点検・清掃・分解・組み立て 2) インテーク・マニホールド及び エキゾースト・マニホールドの点検・分解・組み立て 3) エキゾースト・パイプ及びマフラの点検・分解・組み立て	前期 2コマ
	V. 燃料装置「ガソリン・エンジン」 1. 概要 1) キャブレータ 2) 電子制御式燃料噴射装置 2. 構造・機能 1) インジェクタ 2) フューエル・ポンプ 3) フューエル・タンク 4) フューエル・パイプ 3. 燃料装置の整備要領 1) 整備上の全般的な注意事項 2) 取り外し、取り付けの要点 次ページに続く	後期 2コマ

授業計画	VI. 燃料装置「ジーゼル・エンジン」 1. 概要 1) 機械式燃料噴射装置 2. 構造・機能 1) インジェクション・ポンプ本体 2) インジェクション・ノズル及びノズル・ホルダ	後期 2 コマ
	VII. 電子制御装置「ガソリン・エンジン」 1. 概要 2. 構造・機能 1) 燃料系統 2) 吸気系統 3) 点火系統 4) 制御系統 3. 電子制御装置（ガソリン）の整備要領 ・スキャン・ツールを用いた点検方法 ・スキャン・ツールを用いない点検方法 1) 吸気系統の点検 2) 燃料系統の点検 3) 制御系統の点検	後期 3 コマ
	VIII. 電子制御装置「ジーゼル・エンジン」 （コモンレール式高圧燃料噴射装置） 1. 概要 2. 構造・機能 1) サプライ・ポンプ 2) コモンレール 3) インジェクタ 4) センサ 3. 電子制御装置（ジーゼル）の整備要領 1) 整備上の全般的な注意事項 2) インジェクタ補正值登録	後期 3 コマ
	IX. 排出ガス浄化装置 1. 排出ガスの発生過程とその成分 2. 排出ガス浄化の対応策 1) ガソリン・エンジン 2) ジーゼル・エンジン 3. 排出ガス浄化装置 1) 触媒コンバータ（ガソリン・エンジン） 2) EGR 装置 3) ブローバイ・ガス還元装置 4) 燃料蒸発ガス排出抑止装置（ガソリン・エンジン）	後期 3 コマ
	X. 車載式故障診断装置 1. 概要 1) 自己診断機能 (1) スキャン・ツールによる確認	後期 3 コマ

次ページに続く

授業計画	XI. 燃料及び潤滑剤 1. 燃料 2. 潤滑剤 1) 潤滑の目的・作用 2) 潤滑剤の種類 (1) エンジン・オイル	後期 2 コマ
	XII. エンジンの定期点検・整備 1. 概要 2. エンジンの点検・整備 1) エンジン点検・調整機器 (1) 機器の構造、取扱い方法について (2) エンジン回転計、タイミング・ライト、コンプレッション・ゲージ、バキューム・ゲージ、ラジエータ・キャップ・テスト、ベルト張力計、ノズル・テスト、噴射ポンプ・テスト等 2) エンジン・オイルの点検 3) 冷却水の点検 4) 補機類の駆動用ベルトの点検 5) エア・クリーナの点検 6) フューエル・フィルタの点検 7) バルブ・クリアランスの点検・調整 8) 圧縮圧力の点検 9) フューエル・ポンプの点検 10) アイドル回転速度の点検 11) 排気の状態の点検 12) エンジンの始動状態の点検 13) 低速及び加速状態の点検 14) 排気ガス浄化装置の点検 15) エキゾースト・パイプ及びマフラの点検	後期 4 コマ
学習方法	①教科書を中心に、点検・整備の概要、方法等を理解する。 ②予習・復習・確認試験を実施し理解を深める。 ③授業中に質問し、理解度を確認する。	
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行 「三級自動車整備士（総合）」 (社)日本自動車整備振興会連合会発行 「基礎自動車整備作業」 全国自動車整備専門学校協会発行 「ガソリン・エンジン構造」 全国自動車整備専門学校協会発行 「ディーゼル・エンジン構造」	
評価方法	期末試験 50%、単元試験 30%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(59 点以下)	
教員実務 経験・備考	担当教員 富田 登志男 (自動車整備士として自動車整備工場で整備業務に従事) 沖田 耕一 (自動車整備士として自動車整備工場で整備業務に従事) ※1 単位 15 時間 1 コマ 90 分授業を 1.8 時間とする (50 分を 1 時間)	

ID	教育科目名	項目名		担当教員
9	学科 自動車整備	シャシ		金本 貴司
選択・必修	必修	年次・学期	1 年・前期・後期	
授業形態	講義	授業時間	7 単位授業・62 コマ(111.6 時間)	
目的・目標	自動車のシャシに関する、各部名称、構造、性能、作動原理等を学習し、シャシを整備するために必要な、専門知識を習得する。 自動車のシャシに関係する、点検・整備の必要性やその概要・手法を習得する。			
授業計画	シャシの構造・機能、点検・整備要領			合計 62 コマ
	□基礎整備作業 I. 測定機器 1. 一般測定器 1) 測定機器の構造、取扱い方法について 2) スケール、ノギス、マイクロ・メータ、ダイヤル・ゲージ、シリンダ・ゲージ、シクネス・ゲージ、定盤、Vブロック、スコヤ、ストレート・エッジ II. 整備作業機器 1. 整備作業用機器 1) インパクトレンチ、油圧プレス等の取扱い 2. 昇降作業機器 1) ガレージ・ジャッキ、リジット・ラック、リフト等の構造、取扱い方法と取り扱い上の注意事項について			前期 4 コマ
	□シャシ I. 自動車の運動性能 1. 運動性能の原理 1) 走る原理 2) 止まる原理 3) 曲がる原理 II. 動力伝達装置 1. 概要 2. 構造・機能 1) クラッチ (1) 乗用車・トラック等 (2) 二輪車 2) トランスミッション (1) マニュアル・トランスミッション (2) オートマティク・トランスミッション (3) トランスミッション (二輪車) 3) トランスファ 4) プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフト及びユニバーサル・ジョイント 5) 二輪車の駆動装置 6) ファイナル・ギヤ及びディファレンシャル 3. 動力伝達装置の点検・整備要領 1) クラッチの点検・修正・分解・組み立ての要点 2) マニュアル・トランスミッション分解・点検・組み立ての要点 3) プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフトの点検・修正・脱着・組み立ての要点 4) ファイナル・ギヤ及びディファレンシャルの点検・修正・分解・組み立ての要点			前期 12 コマ
				次ページに続く

次ページに続く

授業計画	Ⅲ. アクスル及びサスペンション 1. 概要 2. 構造・機能 1) アクスル及びサスペンション（四輪車） 2) シャシ・スプリング 3) ショック・アブソーバ 4) アクスル及びサスペンション（二輪車） 3. アクスル及びサスペンションの点検・整備要領 1) アクスルの点検・修正・分解・組み立ての要点 2) サスペンションの点検・修正・分解・組み立ての要点 3) スプリングの点検・修正・分解・組み立ての要点 4) ショック・アブソーバの点検・修正の要点	前期 6 コマ
	Ⅳ. ホイール及びタイヤ 1. 概要 2. 構造・機能 1) ホイール及びタイヤ 2) タイヤに起こる異常現象 3) ホイール・バランス 3. ホイール及びタイヤの整備要領 1) ホイールの点検 2) タイヤの点検・修正 (1) タイヤ・ゲージ、デプス・ゲージの取り扱い (2) タイヤの脱着要領 3) ホイール・バランスの点検・修正 4) 車両への取り付け時の留意点 5) タイヤ・パンクの修理方法	前期 6 コマ
	Ⅴ. ステアリング装置 1. 概要 2. 構造・機能 1) ステアリング操作機構 2) ステアリング・ギヤ機構 3) ステアリング・リンク機構 4) パワー・ステアリング (1) 油圧式パワー・ステアリング (2) 電動式パワー・ステアリング 3. ステアリング装置の整備要領 1) ステアリング操作機構の分解・組み立ての要点 2) ステアリング・ギヤ機構の分解・点検・組み立ての要点 3) ステアリング・リンク機構の分解・点検・組み立ての要点 4) パワー・ステアリング (1) 油圧式パワー・ステアリングの主な点検項目 (2) 電動式パワー・ステアリングの主な点検項目 次ページに続く	後期 6 コマ

	VI. ホイール・アライメント - 概要 - 前後輪の相互関係 - ホイール・アライメント - 構造、機能 - キャンバ 2) キャスタ 3) キング・ピン傾角 - トー 5) スラスト角 6) セット・バック - 左右のホイールの切れ角（ターニング・ラジアス） - ホイール・アライメントの点検・整備要領 - 点検時の注意事項 - ターニング・ラジアス・ゲージ、トーイン・ゲージ、キャンバ・キャスタ・キングピン・ゲージ、ホイール・アライメント・テストの取り扱い要領 - トーの測定・調整 - キャンバの測定・調整 - キャスタ及びキング・ピン傾角の測定・調整 - 左右ホイールの切れ角の測定・調整 - サイド・スリップの測定 4 輪アライメント・テスト	後期 6 コマ
授業計画	VII. ブレーキ装置 - 概要 - 構造、機能 - フット・ブレーキ - 油圧式ブレーキ - 油圧機構 - ドラム・ブレーキ - ディスク・ブレーキ - ブレーキ液 - 制動倍力装置 - エア式ブレーキ - 安全装置 - パーキング・ブレーキ - 手動（足踏み）式パーキング・ブレーキ - 電動式パーキング・ブレーキ 3. ブレーキ装置の点検・整備要領 - フット・ブレーキ - ドラム・ブレーキの点検・分解・組み立ての要点 - ディスク・ブレーキの点検・分解・組み立ての要点 - ブレーキ・ペダルの点検 - マスタ・シリンダ点検・分解・組み立ての要点 - ブレーキ・パイプ及びホースの点検 - パーキング・ブレーキ - 点検・分解・組み立ての要点	後期 12 コマ

次ページに続く

授業計画	VIII. フレーム及びボデー - 概要 - 構造、機能 - フレーム - トラック・バス用フレーム - 二輪車用フレーム - ボデー - 乗用車 (2) トラック (3) バス - ボデー機能部品 - ウインド・ガラス (2) ドア・ロック機構 - ウインド・レギュレータ (4) バンパ (5) ミラー - ボデーの塗装 3. フレーム及びボデー点検・整備 - フレームの亀裂点検 - リベットの緩み点検	後期 3 コマ
	IX. 安全装置 - 概要 - 予防安全装置（アクティブ・セーフティ） - 衝突安全装置（パッシブ・セーフティ）	後期 1 コマ
	X. シャシ関係の潤滑剤 - 潤滑剤の種類 - ギヤ・オイル - ATF 及び CVTF - グリース	後期 2 コマ
	XI. シャシの定期点検・整備 - 概要 - シャシの点検・整備 - クラッチの点検 - 乗用車・トラック等 (2) 二輪車 - トランスミッションの点検 - 乗用車・トラック等 (2) 二輪車 - プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフト及びユニバーサル・ジョイントの点検 - 乗用車・トラック等 (2) 二輪車 - ファイナル・ギヤ及びディファレンシャルの点検 - チェーン、スプロケット、ドライブ・ベルトの点検（二輪車） - アクスル及びサスペンションの点検 - 乗用車・トラック等 (2) 二輪車 - ステアリング装置の点検 - 乗用車・トラック等 (2) 二輪車 - ホイール及びタイヤの点検 - 大型トラック・バスの車輪の取り扱い - ブレーキの点検 - 乗用車・トラック等 (2) 二輪車 - パーキング・ブレーキの点検・調整 - 給油	後期 4 コマ

学習方法	①教科書を中心に、点検・整備の概要、方法等を理解する。 ②予習・復習・確認試験を実施し理解を深める。 ③授業中に質問し、理解度を確認する。
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行 「三級自動車整備士(総合)」 (社)日本自動車整備振興会連合会発行 「基礎自動車整備作業」 全国自動車整備専門学校協会発行 「シャシ構造Ⅰ・Ⅱ」
評価方法	期末試験 50%、単元試験 30%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(59 点以下)
教員実務 経験・備考	担当教員 金本 貴司 (自動車整備士として自動車整備工場で整備業務に従事) ※1 単位 1 5 時間 1 コマ 9 0 分授業を 1. 8 時間とする (5 0 分を 1 時間)

ID	教育科目名	項目名		担当教員
10	学科 自動車整備	電 装		沖田 耕一
選択・必修	必修	年次・学期	1 年・前期・後期	
授業形態	講義	授業時間	3 単位授業・26 コマ(46.8 時間)	
目的・目標	自動車の電装品に関する、各部名称、構造、性能、作動原理等を学習し、電装品を整備するために必要な、専門知識を習得する。 自動車の電装品に関係する、点検・整備の必要性やその概要・手法を習得する。			
授業計画	電装品の構造・機能、点検・整備要領			合計 26 コマ
	□サーキット・テストの活用 1. 準備 2. 測定要領 1) 直流電圧 2) 直流電流 3) 抵抗 4) 使用上の注意点 3. 電気回路の測定			前期 2 コマ
	□エンジン電気装置 I. バッテリ 1. 概要 2. 構造及び種類 3. 機能 1) 放電 2) 充電 3) 容量 4) 自己放電 5) 型式 4. バッテリの点検・整備 1) 液量及び比重の点検と調整 2) 充電 3) ブースタ・ケーブルの取り扱い 4) バッテリ交換作業時などの注意点			前期 2 コマ
	II. 始動装置 1. 概要 1) リダクション式スタータ（プラネタリ式、二輪車） 2) 直結式スタータ 2. 構造と作動 1) モータ、マグネット・スイッチ、オーバーランニングクラッチの構造 2) 始動装置の作動 3. 始動装置の点検・整備 1) 車上における点検 2) スタータの取り外し及び取り付け			前期 2 コマ
	III. 充電装置 1. 概要 2. 構造 1) 励磁式オルタネータ 2) マグネット式オルタネータ（二輪車） 3. 機能 1) 発電の原理 2) ダイオードによる整流			前期 2 コマ
次ページに続く				

次ページに続く

授業計画	3) オルタネータの起電力制御 4. 充電装置の点検・整備 1) 車上的における点検 2) オルタネータの取り外し及び取り付け	
	IV. 点火装置 1. 概要 2. 構造・機能 1) 点火の基礎 2) イグニッション・コイル 3) スパーク・プラグ 3. 点火装置の点検・整備 1) イグニッション・コイル 2) スパーク・プラグ	前期 3 コマ
	V. 予熱装置 1. 概要 2. 構造・機能 1) インテーク・エア・ヒータ式予熱装置 2) グロー・プラグ式予熱装置 3. 予熱装置の点検・整備 1) 予熱装置の作動点検 2) グロー・プラグの点検 3) 配線及び端子部の点検	後期 2 コマ
	III. エンジン電気装置の点検・整備 1. エンジン電気装置の定期点検・整備 1) バッテリーの点検 2) 予熱装置の点検 3) スパーク・プラグの点検 4) 点火火花の点検 5) 点火時期の点検 6) エンジンの始動状態の点検 7) 充電状態の点検 8) 電気配線の点検	後期 3 コマ
	□シャシ電気装置 I. 灯火装置 1. 概要 2. 構造・機能 1) ランプの光源 2) ヘッドランプ 3) 各種ランプ類 4) ヒューズ及びヒューズブル・リンク 5) リレー（断続器） 3. 灯火装置の点検・整備 1) 灯火装置の機能点検 2) ヘッドランプ装置の点検 3) その他の灯火装置の点検	後期 3 コマ

次ページに続く

授業計画	Ⅱ. 計器 1. 概要 1) 計器 2) 警報装置 2. 構造・機能 1) スピード・メータ 2) エンジン・タコメータ 3) ゲージ類 4) ウォーニング・ランプ 3. 計器の点検・整備 1) スピード・メータの点検 2) エンジン・タコメータの点検 3) ゲージ類の点検 4) ウォーニング・ランプの点検	後期 2 コマ
	Ⅲ. 冷暖房装置 1. 概要 2. 構造・機能 1) 冷房機能 2) 暖房機能 3. 冷暖房装置の点検・整備 1) 冷房機能の点検 2) 暖房機能の点検 3) 共通部の点検	後期 2 コマ
	Ⅲ. ホーン、ウインドシールド・ワイパ及びウォッシャ 1. 概要 2. 構造・機能 1) ホーン 2) ウインドシールド・ワイパ及びウォッシャ 3. ホーン、ウインドシールド・ワイパ及びウォッシャの点検・整備 1) ホーンの点検 2) ウインドシールド・ワイパ及びリヤ・ワイパの点検 3) ウインドシールド・ウォッシャの点検	後期 2 コマ
	Ⅳ. 低圧の電気 1. 低圧の電気に関する基礎知識 1) 低圧電気の危険性 2) 短絡・漏電・接地・電気絶縁	後期 1 コマ
学習方法	①教科書を中心に、点検・整備の概要、方法等を理解する。 ②予習・復習・確認試験を実施し理解を深める。 ③授業中に質問し、理解度を確認する。	
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行 「三級自動車整備士（総合）」 全国自動車整備専門学校協会発行 「電装品構造」	
評価方法	期末試験 50%、単元試験 30%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(59 点以下)	
教員実務 経験・備考	担当教員 沖田 耕一 (自動車整備士として自動車整備工場で整備業務に従事) ※1 単位 15 時間 1 コマ 90 分授業を 1.8 時間とする (50 分を 1 時間)	

ID	教育科目名	項目名	担当教員
13	学科 自動車整備に関する法規	自動車整備に関する法規	沖田 耕一
選択・必修	必修	年次・学期	1 年・後期
授業形態	講義	授業時間	1 単位授業・13 コマ(23.4 時間)
目的・目標	自動車の運行のために必要な安全性の確保と公害防止その他の環境保全を図るために、自動車整備士が日常仕事を遂行していくうえで必要な「道路運送車両法」及び「自動車点検基準」、「道路運送車両の保安基準」を学習する。		
授業計画	自動車関係法令及び保安基準		合計 13 コマ
	I. 自動車に対する法規制の概要 II. 道路運送車両法 1. この法律の目的、定義、自動車の種別 2. 自動車の登録等 ・新規登録、抹消登録、臨時運行の許可 3. 道路運送車両の保安基準 ・自動車の構造、自動車の装置、乗車定員又は最大積載量 4. 道路運送車両の点検及び整備 ・点検整備、点検整備記録簿、自動車整備士の技能検定 ・自動車点検基準 5. 道路運送車両の検査等 ・自動車の検査、自動車検査証 6. 自動車の整備事業 ・自動車特定整備事業の種類 ・認証基準 ・指定自動車整備事業 III. 自動車 NO _x ・PM 法		6 コマ
	IV. 自動車点検基準 1. 日常点検基準 2. 定期点検基準 3. 点検整備記録簿の記載事項等		2 コマ
	V. 道路運送車両の保安基準と保安基準の細目を定める告示 1. 用語の定義 2. 自動車の保安基準 1) 長さ、幅及び高さ、最低地上高、車両総重量、軸重等 2) 安定性、最小回転半径 3) 原動機及び動力伝達装置 4) 走行装置等、操縦装置、かじ取装置、施錠装置等 5) 制動装置、緩衝装置 6) 燃料装置、電気装置 7) 車枠及び車体、巻込防止装置等 8) 乗車装置、運転者席、座席、座席ベルト等 9) 乗降口、非常口、物品積載装置、窓ガラス 10) 騒音防止装置 11) 自動車の灯火装置 12) 方向指示器、非常点滅表示灯、その他の灯火等 13) 警音器、非常信号用具、後写鏡等、運行記録計 他		5 コマ

次ページに続く

学習方法	①教科書を中心に授業を進める。 ②予習・復習・確認試験を実施し理解を深める。 ③授業中に質問し、理解度を確認する。
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行 「法令教材」
評価方法	期末試験 50%、単元試験 30%、授業態度(確認試験、提出物、出席状況等)20%で総合評価 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(59 点以下)
教員実務 経験・備考	担当教員 沖田 耕一 (自動車整備士として自動車整備工場で整備業務に従事) ※1 単位 1 5 時間 1 コマ 9 0 分授業を 1. 8 時間とする (5 0 分を 1 時間)

ID	教育科目名	項目名		担当教員
15	実習 自動車整備作業	エンジン又はモータ		山形 光平
選択・必修	必修	年次・学期	1 年・前期・後期	
授業形態	実習	授業時間	6 単位授業・100 コマ(180.0 時間)	
目的・目標	自動車のエンジンに関係する、点検及び検査・分解組立・調整整備の概要と、その手法を習得する。 安全作業、効率作業、整理・整頓・清掃・清潔の基本作業を身に付ける。			
授業計画	エンジン又はモータの点検・整備作業			合計 100 コマ
	□基礎整備作業 Ⅰ. 整備作業機器の取り扱い 1. 一般工具 1) 手持ち工具の名称、取り扱い 2) トルク・レンチ等の取り扱い 3) 各種ボルト・ナットの締め付け作業 2. 整備作業用機器 1) バイス、やすり、弓のこ、ドリル、卓上ボール盤、 タップ、ダイス等の取り扱い 2) おネジ・めネジの作成作業			前期 6 コマ
	□エンジン又はモータ Ⅰ. エンジン本体の分解・点検・調整・組み立て作業 1. シリンダ・ヘッドの分解・点検・測定・組み立て作業 2. シリンダ及びシリンダ・ブロックの点検・測定作業 3. ピストン、ピストン・ピン及びピストン・リングの分解・点検・測定・組み立て作業 4. コンロッド及びコンロッド・ベアリングの分解・点検・測定・組み立て作業 5. クランクシャフト及びジャーナル・ベアリングの分解・点検・測定・組み立て作業 6. フライホイール及びリング・ギヤの分解・点検・組み立て作業 7. バルブ機構の分解・点検・測定・調整・組み立て作業			前期 30 コマ
	Ⅱ. 潤滑装置の分解・点検・調整・組み立て作業 1. エンジン・オイルの点検・調整作業 2. エンジン・オイル及びオイル・フィルタの交換作業 3. オイル・ポンプの分解・点検・調整・組み立て作業 4. オイル・パンの分解・点検・組み付け作業			前期 10 コマ
	Ⅲ. 冷却装置の分解・点検・組立作業 1. 冷却水の点検・調整作業 2. 冷却水の交換作業 3. ウォータ・ポンプの分解・点検・組み立て作業 4. ラジエータ及びサーモスタット分解・点検・組み立て作業 5. クーリング・ファンの分解・点検・組み立て作業 6. ファン・ベルトの点検・調整・交換作業			前期 12 コマ
次ページに続く				

授業計画	IV. 吸排気装置の分解・点検・組み立て作業 1. エア・クリーナの点検・清掃・交換作業 2. インテーク・マニホールド及びエキゾースト・マニホールドの分解・点検・組み付け作業 3. エキゾースト・パイプ及びマフラの分解・点検・組み付け作業	前期 8 コマ
	V. 燃料装置の分解・点検・組み立て作業「ガソリン・エンジン」 1. キャブレタの分解・点検・調整・組み立て作業 2. フューエル・ポンプの取り外し・点検・組み付け作業 3. インジェクタの取り外し・点検・取り付け作業 VI. 燃料装置の分解・点検・組み立て作業「ディーゼル・エンジン」 1. 機械式燃料噴射装置の分解・点検・調整・組み立て作業 1) インジェクション・ポンプ本体 2) インジェクション・ノズル及びノズル・ホルダ 2. コモンレール式燃料噴射装置の点検・調整作業 1) 整備作業上の全般的な注意事項 2) インジェクタ補正值登録	後期 8 コマ
	VII. 電子制御装置の点検・交換（脱着）作業 1. 各センサ及びアクチュエータの点検作業 1) スキャン・ツールを用いた点検方法 2) スキャン・ツールを用いない点検方法 2. 各センサ及びアクチュエータの取り外し・点検・取り付け作業 1) 吸気系統の点検 2) 燃料系統の点検 3) 制御系統の点検 4) 排出ガス系統の点検	後期 12 コマ
	VIII. エンジンの定期点検・調整・検査・整備作業 1) 作業概要 2) エンジンの点検・整備作業 (1) エンジン・オイルの点検 (2) 冷却水の点検 (3) 補機類の駆動用ベルトの点検・交換作業 (4) エア・クリーナの点検 (5) フューエル・フィルタの点検 (6) バルブ・クリアランスの点検 (7) 圧縮圧力の点検 (8) フューエル・ポンプの点検 (9) アイドル回転速度の点検 (10) 排気の状態の点検 (11) エンジンの始動状態の点検 (12) 低速及び加速状態の点検 (13) 排気ガス浄化装置の点検 (14) エキゾースト・パイプ及びマフラの点検 次ページに続く	後期 14 コマ

学習方法	①教科書を中心にエンジンの点検・分解・組立・調整・検査の方法を習得する。 ②分解・組立の要領及び点検・調整結果等を実習レポートにまとめる。 ③授業中に質問し、理解度を確認する。
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行 「三級自動車整備士(総合)」 (社)日本自動車整備振興会連合会発行 「基礎自動車整備作業」
評価方法	期末試験 60%、提出物 20%、授業態度(出席状況等含む)20%で総合評価 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(59 点以下)
教員実務 経験・備考	担当教員 山形 光平 (自動車整備士として自動車整備工場で整備業務に従事) ※1 単位 30 時間 1 コマ 90 分授業を 1.8 時間とする (50 分を 1 時間)

ID	教育科目名	項目名		担当教員
16	実習 自動車整備作業	シャシ		金本 貴司
選択・必修	必修	年次・学期	1 年・前期・後期	
授業形態	実習	授業時間	9 単位授業・164 コマ(295.2 時間)	
目的・目標	自動車のシャシに関係する、点検及び検査・分解組立・調整整備の概要と、その手法を習得する。 安全作業、効率作業、整理・整頓・清掃・清潔の基本作業を身に付ける。			
授業計画	シャシ点検・整備作業			合計 164 コマ
	□基礎整備作業 I. 測定機器 1. 一般測定器 1) 測定機器の取扱い方法 ・スケール、ノギス、マイクロ・メータ、ダイヤル・ゲージ、シリンダ・ゲージ、シックネス・ゲージ、定盤、Vブロック、スコヤ、ストレート・エッジ 2) 基本測定作業 II. 整備作業機器 1. 整備作業用機器・昇降作業用機器 1) インパクトレンチ等の取扱い 2) ガレージ・ジャッキ、リジット・ラックの取り扱い方法及び昇降作業 3) リフトの取り扱い方法及び昇降作業			前期 14 コマ
	□シャシ I. 動力伝達装置の分解・点検・調整・組立作業 1. クラッチの分解・点検・調整・組立作業（乗用車・二輪車） 2. マニュアル・トランスミッション（乗用車）及びトランスファの分解・点検・調整・組立作業 3. マニュアル・トランスアクスルの分解・点検・調整・組立作業 4. オートマティク・トランスアクスルの分解・点検・調整・組立作業 5. プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフトの脱着、分解・点検・組立作業 6. ファイナル・ギヤ及びディファレンシャルの脱着、分解・点検・調整・組立作業 7. トランスミッション（二輪車）の分解・点検・調整・組立作業 1) ドグ式 2) ベルト式自動無断変速機			前期 36 コマ
	II. アクスル及びサスペンションの分解・点検・調整・組立作業 1. リヤ・アクスルの分解・点検・調整・組立作業 2. フロント及びリヤ・サスペンション（乗用車・二輪車）の分解・点検・組立作業 3. シャシ・スプリング（乗用車・二輪車）の点検・組立作業 4. ショック・アブソーバ（乗用車・二輪車）の点検・組立作業			前期 24 コマ
次ページに続く				

授業計画	Ⅲ. ホイール及びタイヤの分解・点検・調整・組立作業 1. ホイール及びタイヤの点検作業（乗用車・二輪車） 2. タイヤの脱着作業 3. タイヤの組替作業 4. ホイール・バランスの点検・調整作業 5. タイヤ・パンク修理作業	前期 14 コマ
	Ⅳ. ステアリング装置の分解・点検・調整・組立作業 1. ステアリング操作機構（乗用車）の分解・点検・組立作業 2. ステアリング・ギヤ機構の分解・点検・調整・組立作業 3. ステアリング・リンク機構の分解・点検・組立作業 4. パワー・ステアリングの分解・点検・組立作業 5. ステアリング操作機構（二輪車）の分解・点検・組立作業	後期 14 コマ
	Ⅴ. ホイール・アライメントの点検・調整作業 1. トーの測定・点検・調整作業 2. キャンバの測定・点検・調整作業 3. キャスタ及びキング・ピン傾角の測定・点検作業 4. 左右ホイールの切れ角の測定・点検・調整作業 5. サイド・スリップの測定・点検・調整作業	後期 14 コマ
	Ⅵ. ブレーキ装置の分解・点検・調整・組立作業 1. フット・ブレーキ 1) ドラム・ブレーキの分解・点検・調整・組立作業 2) ディスク・ブレーキの分解・点検・組立作業 3) ブレーキ・ペダルの分解・点検・調整・組立作業 4) マスタ・シリンダの分解・点検・組立作業 5) ブレーキ・パイプ及びホースの脱着・点検・組立作業 2. パーキング・ブレーキ 1) パーキング・ブレーキの点検・分解・組立・調整作業 3. ブレーキ（二輪車） 1) ドラム・ブレーキの分解・点検・調整・組立作業 2) ディスク・ブレーキの分解・点検・組立作業	後期 32 コマ
	Ⅶ. フレーム及びボデー点検作業 1. フレームの亀裂・点検作業 2. サブ・フレームの亀裂・点検作業	後期 3 コマ
	Ⅷ. シャシの定期点検・調整・検査・整備作業 1. 作業概要 2. シャシの点検・整備作業（乗用車） 1) クラッチの点検 2) トランスミッションの点検 3) プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフト及びユニバーサル・ジョイントの点検 4) ファイナル・ギヤ及びディファレンシャルの点検 5) フロント・アクスル及びフロント・サスペンションの点検 6) リヤ・アクスル及びリヤ・サスペンションの点検 7) シャシ・スプリング及びショック・アブソーバの点検 次ページに続く	後期 13 コマ

授業計画	8) ステアリング装置の点検 9) ホイール及びタイヤの点検 10) フート・ブレーキ（油圧式）の点検 11) パーキング・ブレーキの点検 12) シャシ回りの給油作業 3. シャシの点検・整備作業（二輪車） 1) クラッチの点検 2) トランスミッションの点検 3) チェーン、スプロケット及びドライブ・ベルトの点検 4) フロント・アクスル及びフロント・サスペンションの点検 5) リヤ・アクスル及びリヤ・サスペンションの点検 6) ステアリング装置の点検 7) ホイール及びタイヤの点検 8) ブレーキ装置（フロント・リヤ）の点検 9) シャシ回りの給油作業	
学習方法	①教科書を中心にシャシの点検・分解・組立・調整・検査の方法を習得する。 ②分解・組立の要領及び点検・調整結果等を実習レポートにまとめる。 ③授業中に質問し、理解度を確認する。	
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行 「三級自動車整備士（総合）」 (社)日本自動車整備振興会連合会発行 「基礎自動車整備作業」	
評価方法	期末試験 60%、提出物 20%、授業態度(出席状況等含む)20%で総合評価 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(59 点以下)	
教員実務 経験・備考	担当教員 金本 貴司（自動車整備士として自動車整備工場で整備業務に従事） ※ 1 単位 3 0 時間 1 コマ 9 0 分授業を 1. 8 時間とする（5 0 分を 1 時間）	

ID	教育科目名	項目名		担当教員
21	実習 自動車整備作業	電 装		沖田 耕一
選択・必修	必修	年次・学期	1 年・前期・後期	
授業形態	実習	授業時間	5 単位授業・88 コマ(158.4 時間)	
目的・目標	自動車の電装に関係する、点検及び検査・分解組立・調整整備の概要と、その手法を習得する。 安全作業、効率作業、整理・整頓・清掃・清潔の基本作業を身に付ける。			
授業計画	電装品の点検・整備作業			合計 88 コマ
	□電気回路 パネル実習 1. 基礎回路の作成と電圧・電流・抵抗の点検・測定作業 2. 基礎的な灯火回路の作成と点検・測定作業 3. 基礎的なリレー回路の作成と点検・測定作業 4. 基礎的な半導体回路の作成と点検・測定作業			前期 14 コマ
	□エンジン電気装置 Ⅰ. バッテリーの点検・調整・整備作業 1. バッテリーの交換（脱着）作業 2. バッテリー液量及び比重の点検と調整作業 3. バッテリーの充電作業 4. ブースタ・ケーブルによる救援作業			前期 10 コマ
	Ⅱ. 始動装置の点検・脱着作業 1. 車上における点検作業 2. スタータの取り外し及び取り付け作業 3. スタータの分解・点検・組立作業			前期 10 コマ
	Ⅲ. 充電装置の点検・脱着作業 1. 車上における点検作業 2. オルタネータの取り外し及び取り付け作業 3. オルタネータの分解・点検・組立作業			前期 10 コマ
	Ⅳ. 点火装置の点検・整備作業 1. イグニッション・コイルの点検・整備作業 2. スパーク・プラグの脱着と、点検・整備作業 3. ハイテンション・コードの点検・整備作業 4. 点火時期の点検・調整作業			前期 8 コマ
	Ⅴ. 予熱装置の点検・整備作業 1. 予熱装置の作動点検 2. グロー・プラグの脱着と、点検・整備作業 3. 配線及び端子部の点検・整備作業			後期 4 コマ
次ページに続く				

授業計画	☐ シャン電気装置 I. 灯火装置の点検・整備作業 1. 灯火装置の機能点検・整備作業 2. ヘッドランプ装置の点検・整備作業 3. その他の灯火装置の点検・整備作業 4. 各種ランプの交換作業	後期 7 コマ
	II. 計器の点検・整備作業 1. スピード・メータの点検・整備作業 2. エンジン・タコメータの点検・整備作業 3. 各種ゲージ類の点検・整備作業 4. スピード・メータ A S S Y 脱着と分解・点検・組立作業	後期 7 コマ
	III. 冷暖房装置の点検・整備作業 1. 冷房機能の点検・整備作業 2. 暖房機能の点検・整備作業 3. 共通部の点検・整備作業	後期 8 コマ
	IV. ホーン、ウインドシールド・ワイパ及びウォッシャの点検・整備作業 1. ホーンの脱着と点検・整備作業 2. ウインドシールド・ワイパの点検・整備作業 3. ワイパ・ブレードの交換作業 4. ウインドシールド・ウォッシャの点検・整備作業	後期 6 コマ
	V. ボデー電装品の点検・整備作業 1. ドア・ロック機構の脱着・点検・整備作業 2. ウインド・レギュレータの脱着・点検・整備作業	後期 4 コマ
学習方法	①教科書を中心に電装の点検・分解・組立・調整・検査の方法を習得する。 ②分解・組立の要領及び点検・調整結果等を実習レポートにまとめる。 ③授業中に質問し、理解度を確認する。	
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行 「三級自動車整備士(総合)」 全国自動車整備専門学校協会発行 「電装品構造」	
評価方法	期末試験 60%、提出物 20%、授業態度(出席状況等含む)20%で総合評価 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(59 点以下)	
教員実務 経験・備考	担当教員 沖田 耕一 (自動車整備士として自動車整備工場で整備業務に従事) ※1 単位 30 時間 1 コマ 90 分授業を 1.8 時間とする (50 分を 1 時間)	

ID	教育科目名	項目名		担当教員
20	実習 自動車検査作業	自動車検査作業		沖田・山形
選択・必修	必修	年次・学期	1 年・後期	
授業形態	実習	授業時間	2 年間トータル 16 コマ(28.8 時間)	
目的・目標	道路運送車両法の自動車点検基準を理解した上で、各種機器による点検・調整・検査の方法を習得し、装置の保安基準の確認、性能の確認、公害防止の確認を行う。			
授業計画	自動車の点検・検査作業			合計 16 コマ
	I．自動車の点検・検査要領の習得 1. 視覚・触覚・聴覚・嗅覚・体感による点検・検査要領 2. 各種点検・測定機器を用いた点検・検査要領			4 コマ
	II．自動車点検基準 1. 日常点検基準による点検・調整・検査 2. 1 2 ヶ月定期点検基準による点検・調整・検査 3. 点検整備記録簿の記載要領			12 コマ
学習方法	①教科書を中心に自動車点検基準に基づいた、点検・検査要領を習得する。 ②1 2 ヶ月定期点検整備記録簿に点検結果をまとめる。 ③授業中に質問し、理解度を確認する。			
教科書 参考資料	(社)日本自動車整備振興会連合会発行 「法令教材」 (社)日本自動車整備振興会連合会発行 「三級自動車整備士（総合）」 (社)日本自動車整備振興会連合会発行 「基礎自動車整備作業」			
評価方法	期末試験 60%、提出物 20%、授業態度(出席状況等含む)20%で総合評価 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(59 点以下)			
教員実務 経験・備考	担当教員 沖田 耕一 （自動車整備士として自動車整備工場で整備業務に従事） 山形 光平 （自動車整備士として自動車整備工場で整備業務に従事） ※1 単位 3 0 時間 1 コマ 9 0 分授業を 1. 8 時間とする（5 0 分を 1 時間）			

ID	科目名	項目名		担当教員
21	一般教養	一般教養		田中 康夫 1 年生担任
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次・前期・後期	
授業形態	講義	授業時間	2 単位授業・20 コマ(36.0 時間)	
目的・目標	就職指導により、希望就職先への活動を支援する。 自動車整備士に必要な各種資格を取得する。 ソーシャル検定（中級）の資格取得及び社会人としてのマナーや新入社員としての基本を学ぶことにより現代社会のマナー・モラル・常識などを学習する。			
授業計画	一般教養			合計 20 コマ
	Ⅰ．就職指導（支援） ・就職に対する心構え ・就職活動の流れや具体的な要領 ・就職セミナー ・履歴書の記入 ・就職試験対策 Ⅱ．資格試験 ・損害保険募集人（基礎単位）			前期・後期 12 コマ
	Ⅲ．ソーシャル検定講習〈基本テキスト〉 第 1 章 ソーシャル検定で学ぶこと 第 2 章 新社会人としてのマナー 第 3 章 新入社員としての基本 第 4 章 現代社会のルール 第 5 章 現代社会のマナー・モラル・常識 第 6 章 日頃からの心構えと練習			前期 8 コマ
学習方法	・就職指導はプリントを中心に授業を進める。 ・ソーシャル検定はテキストを中心に授業を進める。 ・授業中、項目ごとに確認試験を実施し、理解度を確認する。			
教科書 参考資料	専門学校 広島自動車大学校専用 「一般教養 専用テキスト・ファイル」 全国自動車整備専門学校協会発行 「ソーシャル検定」〈基本テキスト〉			
評価方法	期末試験 60%、提出物 20%、授業態度(出席状況等含む)20%で総合評価 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(59 点以下)			
教員実務 経験・備考	担当教員 田中 康夫 （実務経験無し） 金本 貴司 （実務経験無し） 沖田 耕一 （実務経験無し） ※ 1 単位 1 5 時間 1 コマ 9 0 分授業を 1. 8 時間とする（5 0 分を 1 時間）			

ID	教育科目名	項目名		担当教員
22	工作作業	工作作業		外部委託
選択・必修	必修	年次・学期	1 年・前期・後期	
授業形態	講義・実習	授業時間	2 年間トータル 8 コマ(14.4 時間) ※全て企業委託授業	
目的・目標	ガス溶接技能講習およびアーク溶接特別教育を通じて、自動車整備に必要な工作作業の知識及び技術の習得、並びに安全作業、環境保全に対する知識を習得する。			
授業計画	ガス溶接・アーク溶接			※合計 8 コマ
	Ⅰ. ガス溶接技能講習			前期
	Ⅱ. アーク溶接特別教育			後期
学習方法	外部委託			
教科書 参考資料	外部委託			
評価方法	資格取得状況、受講態度、出席状況等により評価する 優（80 点以上）、良（70～79 点）、可（60～69 点）、不可（59 点以下）			
教員実務 経験・備考	外部委託 ※1 単位 3 0 時間 1 コマ 9 0 分授業を 1. 8 時間とする（5 0 分を 1 時間）			

ID	科目名	項目名		担当教員
23	特別教育活動	特別活動		1・2年生 担当教員
選択・必修	必修	年次・学期	1 年次・前期・後期	
授業形態	その他	授業時間	2 年間トータル 16 コマ(28.8 時間)	
目的・目標	① 古沢学園の教育理念に基づき、学校生活への適応、自主性の向上を図る。 ② 健康診断を通じて、健康管理意識の向上を図る。 ③ 献血を通じて、社会貢献意識の向上を図る。 ④ 合宿研修を通して、集団生活への適応と幅広い人間関係を作る。 ⑤ 職員と学生が寝食を共にし、相互の理解を深める。 ⑥ 共通の体験を通し、喜び・楽しさ・達成感を共有することで互いの絆を深める。			
授業計画	□特別活動 B			合計 6 コマ
	1. オリエンテーション 2. 健康診断 3. 献血 4. 大掃除 ほか			
	□特別活動 A			合計 10 コマ
	三瓶研修〔目的・目標〕 1. 集合・発声訓練 ・コミュニケーションの第一歩である挨拶を、声を張り上げることにより、 照れないで率先して挨拶ができるようにする。 ・集合訓練では、集団生活の中で必要な“規律”を得るようにする。 2. 登山研修 ・自然に親しみ、理解を深めるとともに、集団で困難な目標に立ち向かうことで、 達成感や協調性、集団行動のあり方を学習する。 ・地図を頼りにグループで登山を行うことで、意思決定の場面などを作り出し、 「協力」「個人の取組み姿勢」「グループのあり方」などを考える。 3. グループ・ワーク ・目的達成のための仲間意識と、情報を交換しながら共有する力を得る。 ・目的に向かって構成員相互に啓発・奨励しながら学習する。 ・学習の成果を、仲間とともに表現（発表）できる場とする。 4. 集団生活 ・寝食を共にすることにより、社会性や人間関係の育成を図る			
学習方法	特別活動 B：行事予定に基づき実施する。 特別活動 A：研修プログラムに基づき実施する。			
教科書 参考資料	特別活動 A：専門学校 広島自動車大学校専用 「研修プログラム」			
評価方法	出席状況、取組姿勢や態度で総合評価 優（80 点以上）、良（70～79 点）、可（60～69 点）、不可（59 点以下）			
教員実務 経験・備考	担当教員 金本 貴司、沖田 耕一、山形 光平、田中 康夫 富田 登志男、有保 浩司、藤井 泰祐（全員、実務経験無し） ※1 単位 30 時間 1 コマ 90 分授業を 1.8 時間とする（50 分を 1 時間）			

【備考欄】